



季節は早いもので、すでに三月になろうとしています。行船公園にもわずかながら春を感じさせる緑が戻ってきました。つい先日新年のご挨拶をしたばかりという気もしますが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

今年は寒い日が続くと思いませんか？上着やコートを突き抜けるような冷たさを久々に感じた気がしました。しかし、暦の上ではもう春です。日一日と暖かくなる感じは、一年の中でもっとも「ウキウキ」します。好きな季節は人それぞれ違うでしょうが、この季節が嫌いという人はいませんものね。

さて、先月も話題にしたインフルエンザの猛威、やっぱりすごかったようですね。われわれの身の回りでも数人から「先週はインフルエンザで寝込んでいました」という声を聞きました。知人の歯科衛生士は、まだ20歳代の若さですが、こじらせて入院したそうです。用心しなければいけませんね。

これからは、卒業式、入学式、そしてお花見とあわただしい季節がやってきます。皆さんも体調管理にはくれぐれもお気をつけください。

### ✕ アトピー性皮膚炎 ✕

「アトピー性皮膚炎」という言葉が出てきて久しくなります。その症状についていまさら説明するまでもないでしょうが、苦しんでおられる方、またはその家族は多いようです。特に、最近の幼稚園では発症している園児も多く、各クラスに数人から十数人単位でいると聞きました。



これに対する治療法は、皮膚科でもいろいろ考えられていると思いますが、「これ」と言った決定的なものはないのではないのでしょうか（推測ですが）。と言うのも、「アトピー」という言葉はそもそも「分類できない」「分類する場所がない」というギ

リシア語です。それだけ医療者も頭を抱えているということなのです。

さて、先日、「代替（だいたい）医療」について勉強する機会がありました。代替医療とは、従来の西洋医学に対し、伝統的な医療や民間療法の中で有効なものを指します。一般的に知られているものだと、中国から入ってきた漢方や鍼灸、気功、インドのアーユルヴェーダ、アロマセラピー、「ガンに効くキノコ」なども代替医療に含まれます。

このような文献の中に、「断食をしてアトピー性皮膚炎を治す」というものもありました。あくまでも一つの参考として内容をご紹介します。

その著者が述べるアトピー性皮膚炎の原因とは、「環境」と「食事」だそうです。確かに最近の家やマンションは、ハウスダストや化学物質によるシックハウス症候群の問題もあり、アトピーの原因としては考えられます。その解決法として、木炭を部屋に置いたり、庭に埋めたりすることも有効なのだそうです。確かに炭はマイナスイオンを発生することで注目されています。

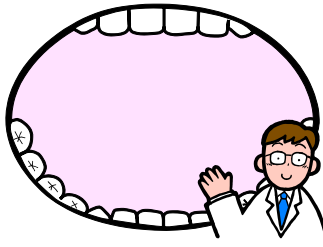
また「食事」については、過剰な動物性食物と脂肪分が十分に消化できないことが原因と述べています。朝食はパンにベーコンエッグ、昼はマック、間食も食べて夜はハンバーグなんていう食生活を送っている子供もいるようですし、子供の肥満が社会問題になっていることも事実です。もちろん、専門家の指導は必要ですが、断食というのは効果的かもしれませんね。



その著者は（薬などを）「入れる医療」から（悪いものを）「出す医療」へとも述べていました。なるほどなあと思います。実際この著者の指導でどのくらいの方のアトピー性皮膚炎が治るのかは疑問ですが、面白い考え方だともいいませんか。



## 歯が割れる！



私たちは日頃から皆さんの歯が健康で、おいしい食事をしていただきたいと考えています。しかし、残念ながら歯を抜かなければならないこと

もあり、「この歯は抜きましょう」という時は断腸の思いです（ちょっと大げさですが）。

この抜歯の原因には、深い虫歯、重度の歯槽膿漏とならび「歯根のハセツ」が挙げられます。歯根とは歯の根っここの部分、「ハセツ」とは文字通り割れることです。じつは、これが歯科ではもっとも深刻な問題であり、どんな歯科医師でも必ず経験するのですが、いつも額にジワリと汗がにじみます。

歯は、絶えず口の中で大きな力を受けています。その力を受けるために歯には「しなる」性質があります。もちろんごく微量で、指で触って分かるようなものではありません。しかし、虫歯が進行してしまい、いわゆる「歯の神経」の処置により中の神経を抜いてしまうとこの「しなり」がなくなってしまいます。

このような状況を改善するため、中の空洞（神経が入っていたところ）に金属の心棒を挿入し（いわゆる土台）補強します。現在、ほとんどすべての歯科医院でこのような方法で処置をしています。もちろん、多くのケースは問題ないのですが、噛む力が強い人、噛み合わせが悪い人、そして打撲などにより大きな力が加わってしまうと歯の根っこにひびが入り、多くの場合はハセツしてしまいます。「ある日、堅いおせんべいを食べた後から痛烈な痛みが走り、痛みが消えない」といった症状が出ることもあります。

先日、1本の根が4つに割れていた方もいました。

私たちとしても、「何とか保存しよう！」と努力するのですが、痛みが出てきてしまったり、差し歯がすぐに取れてしまったり、根の周り



り、差し歯がすぐに取れてしまったり、根の周り

の炎症が大きくなってしまいます。そこで多くの場合は抜歯という処置をとらざるを得なくなってしまいます。

現在でも多くの研究者や臨床家たちがハセツの研究をしてその対策を考えているのですが、なかなか有効な策は出ていません。

そこで予防法を考えると、「虫歯を未然に防ぎ、歯のしなりを失わないこと」しかないようです。予防に近道はありませんね。



## ご意見はこちら

ほしば歯科医院へのご意見、ご感想、その他何でも受け付けております。どのような方法でも結構ですからお気軽におっしゃってください。

電話 03-3686-4657

ファックス 03-3877-7771

e-mail info@hoshiba.net

ホームページ

<http://www.hoshiba.net>

## 編集後記

以前、ニュースレターで「新しい診療室になってから、何年ぶりかの患者様が多く来られるようになってうれしい」と書きました。それをどなたかが読んだかのように、最近、久しぶりの患者様が増えています。

先日、ふと気づくと、12年ぶり、10年ぶり、8年ぶりの方が再初診として並んでおられました。そんな時、以前のカルテが手元にあると少しうれしくなってしまいます。「あの時お子さんは 歳でしたねえ」などと話すと、これまでの時間を一気に取り戻せそうで。診療室の小さな幸せでした。

ほしば歯科医院ニュースレター第62号  
発行日 2006年2月21日発行

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西1-13-7  
tel. 03-3686-4657 fax. 03-3877-7771  
e-mail. info@hoshiba.net  
<http://www.hoshiba.net>  
発行責任者 干場貴二